

MLA*連携の起源と展開 - 連携の要としての公立図書館の可能性

*M: museum, L: library, A: archives

全国公共図書館協議会研究集会，2015.07.03 於，都立中央図書館

水谷 長志
東京国立近代美術館企画課情報資料室長

1. MLA 連携の起源 (1) ミュージアム・ライブラリ
 - 1.1 ミュージアムの中のライブラリ
東京国立近代美術館アートライブラリ
東京都現代美術館美術図書室 ほか
 - 1.2 ミュージアムの中のライブラリの連携
ALC Art Libraries Consortium 2004 - 現在、9 館 11 室
2. MLA 連携の起源 (2) アートアーカイブ
 - 2.1 Art Archives アートアーカイブ その「概念」との遭遇 1988
1988 IFLA〔国際図書館連盟〕シドニー大会美術図書館分科会キーノート・スピーチ
Art Archives: A Common Concern of Archivists, Librarians and Museum Professionals
 - 2.2 Art Archives アートアーカイブ その「実体」との遭遇□ 1990
ニューヨーク近代美術館 Library/Archives にて
 - 2.3 Relationship of Art Archives to Libraries, Museums 1990
 - 2.4 Art Archives アートアーカイブ その「実体」との遭遇□ 1993
『東京国立近代美術館所蔵品目録 岸田劉生 作品と資料：Catalogue of Collections, The National Museum of Modern Art, Tokyo Ryusei Kishida Works and Archives』1996
3. MLA 連携の起源 (3) 2 つの MLA 連携のかたち
 - 3.1 2 つの MLA 連携を描く
MLA 連携 <外なる/内なる>トライアングル outer / inner triangle
 - 3.2 MLA under same roof: An individual institution with all three types of organizations
MLA in the wild: Individual independent institutions
下記・参考の i) など
4. MLA 連携の展開 (1) MLA 連携の広まり
 - 4.1 MLA 連携を世に問う 1994
第 1 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「ミュージアム・ライブラリ・アーカイヴをつなぐもの - アート・ドキュメンテーションからの模索と展望」
アート・ドキュメンテーション研究会 Japan Art Documentation Society (発足 1989.4.1)
 - 4.2 あらためて問う MLA 連携 2009
第 4 回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「MLA 連携の現状、課題、そして将来」
 - 4.3 MLA をめぐる多様な議論と展開 2010-2011

5. MLA 連携の展開 (2) MLA 連携の基礎課題
- 5.1 なぜ MLA 連携は M-L-A の共通課題として捉えられるのか/捉えられたのか
背景：
- 5.2 MLA 連携の可能性の担保としてのデジタルアーカイブとインターネット空間の共有
デジタルアーカイブと MLA 連携： 原理の整理の試みとして
3つの基本的な見方（概念）
1. media = messages[contents] on carrier
 2. metadata
 3. contents と carrier との関係：不可分性(Bindingness) と代替可能性(Substitutability)
- 5.3 MLA のデジタル化に伴う「メタデータとデジタル化物（オリジナルの写像）のセット」
の構造
- 5.4 「オリジナルと写像との関係は MLA それぞれに特性があり、その特性を捉える事が MLA
連携とデジタルアーカイブにとって決定的に重要である。」
下記・参考の ii) など
- 5.5 M-L-A の多様なコンテンツを記述/表象するメタデータを一元化する試み
事例： Europeana
 国立国会図書館サーチ
 秋田県立図書館デジタルアーカイブ ほか
6. MLA 連携の展開 (3) 連携の要としての公立図書館の可能性
- 6.1 さて、MLA 連携の L における先導性と効用について L の優位を確認すると…
 地域文化資源への Portal
 能動的利用者
 伝統的/潜在的レファレンス力
 コレクション（蔵書）情報の開示公開（OPAC）が常識であること
- 6.2 全国美術館会議学芸員研修会 2015 から：
 「美術館はホームページでどのような作品情報を発信すべきか？ / 学芸員は美術情報資
 料をどこで入手するのか？」
- 6.3 東京大学司書・学芸員課程でのレポート 2015 から：
 「もっとも身近なコミュニティの博物館のコレクション情報にアクセスできるか - ミュ
 ージアム・コレクションのアクセシビリティを問う」
- 6.4 MLA 連携 図書館でまずできること
 図書館の中に同じコミュニティのミュージアムの刊行物をまとめて置く棚を開架の書架
 に設けて下さい。

終わりに - MLA 連携の新たな起源 2011.3.11

「あなたのタグがあったから」2011.6.21 朝日新聞

誠実なドキュメンテーションこそがすべての始まりであり、MLA 連携の基礎にあるとい
うこと。

下記・参考の ii) など

参 考：

- i) 水谷 「MLA 連携のフィロソフィー - “連続と侵犯”という」『情報の科学と技術』61 巻 6
号, 情報科学技術協会, 2011.6, p.216-221.
- ii) 水谷 「MLA の差異と同質を踏まえて伝える文化"継承" - あるクラスの風景から—」『DHjp
新しい知の創造』1 号, 勉誠出版, 2014.2.10, p.56-60.